

中国が F-22A のステルス技術を研究か

漢和防務評論 20160801 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

最近、中国西安市近郊の中国空軍試験飛行センター（閻良）から北東約 33KM に位置する小さな蒲城内府飛行場で原寸模型の F-22 が衛星写真により発見されました。その使用目的に関する漢和防務評論の記事を紹介します。

中国は仮想敵国の戦闘機に対抗するため、対象となる戦闘機すべての模型を製作しているようです。模型を使ってシミュレーション試験を行い、自国の戦闘機開発の参考にするようです。

中国のコピー文化は”脅威”の一語に尽きます。しかし技術者の熱意は称賛するとしても、結果がすべてです。

KDR ニュース平可夫特電：

西安近郊の閻良試験飛行センターから東北東約 33KM に位置する PUCHENG NEIFU（蒲城内府）飛行場で、大きさ及び形状が F-22 にそっくりな模型が発見された。この情報を最初に披露したのは軍事アナリストの KYLE MIZOKAMI 氏である。2015 年 12 月の衛星写真で確認された。同飛行場の滑走路は 1000M しかなく、したがってこの“F-22”は模型であると判断できる。

また 1990 年代に KDR 記者は、洛陽光電機器工場内で“F-117”の全尺寸模型を発見している。KDR の記者はセルビアの首都ベオグラードを訪問した際、当時撃墜された F-117 の残骸を発見した。この残骸は二つの博物館に分けて陳列されていたが、残骸の量は、すべて合わせても機体の 5 分の 1 程度に過ぎなかった。

したがって前南スラブ政権（ユーゴスラビア）が残骸の一部を中国、ロシアに輸出した可能性が極めて高い。中国、ロシアは、ステルス塗料及び材料の研究に供したのであろう。

現在閻良付近で発見された“F-22”は、如何なる用途に使用するのであろうか。

数年前、本誌記者と中国航空工業界の消息筋は、以下の内容の対話を行った：

KANWA：なぜ洛陽に“F-117”の全尺寸模型があるのか？

消息筋：我々は、今まで實際上、すべての米軍戦闘機の全尺寸模型を造ってきた。これらの模型は、風洞試験に使用したり、大きさを分析したり、電気回路

配線を研究したりした。

KANWA：まさか“F-117A”のクローン機を製作するためでは？

消息筋：はっきりわからない。しかし我々は、ステルス技術の材料、エアロダイナミックスに興味があった。技術者は、すべての研究対象に対して、自分の手に取って見て、模型を製作し、研究し試して見るものだ。

KANWA：どんな飛行機の全尺寸模型を造ったのか、或いは風洞試験を行ったのか、知っているか？

消息筋：F-15、F-16については、半分のサイズ或いは様々なサイズの模型を製作して風洞試験を行った。これらの機体の設計の特徴を研究するためだ。

KANWA：この作業には莫大な資金を要したであろう？

消息筋：現在航空工業界は資金が潤沢だ。資金的な問題はない。

以上の対話から知りうることは、現在中国がF-22の全尺寸模型を製作しているのは何ら奇異なことではないことだ。F-22はJ-20の主要な作戦対象であり、前者に対して可能な限りの研究を行うことは当然のことである。米国空軍は、中国軍にとって最重要な仮想敵である。軍内の各種文献においては、“強敵（米軍）の介入”と表現されている。

KDR の分析：この“F-22”を閩良の試験飛行センターに置いていない理由は、発見されるのを防止するためであろう。模型は当然玩具ではなく、某種の研究に供せられる。最も可能性がある目的は、基本設計のサイズを比較するためである。F-22が国際航空ショーで展示されたのは1回だけではない。例えば、今年のシンガポール航空ショーである。F-22の展示地区は毎日多くの中国人が訪れ、写真を撮り、詳細に録画していた。また米国で公開されているF-22に関する刊行物、画像、スパイから得た情報を基にしてF-22の模型を製作し、設計理念に関する基礎研究を行った。この3月、米国は、カナダに在住する中国スパイを逮捕した。罪名は、米国の国防関連企業のネットワークに潜入し、F-22を含むステルス戦闘機技術を盗んだというものである。

例えば、当時洛陽の光電機器工場で発見したF-117の模型は、中国が複製したステルス材料を塗装し、その後地上で、同工場で生産したE/O探知系統がF-117Aを発見できる距離、データを研究した。これは内部で“シミュレーション試験”と呼称された。今回発見された“F-22”模型は、類似の“シミュレーション試験”を行っている可能性がある。

コルラの第二砲兵射場では、エプロンに並べられたF-15に対し、集束弾頭攻撃

の試験を行った形跡が発見された。F-15 は、全尺寸模型であったが、模型は粗雑な製品であった。

上述の消息筋の話を聞けば、ある日中国国内で全尺寸模型の F-35 が発見されてもおかしくない。同じ理由で、“F-22”、“F-35”の風洞試験分析結果が J-20 や FC-31 の改良に利用される可能性がある。

西側の航空工業界は、J-20 や FC-31 の設計に疑問を持っている：後者に対しては、F-35 の盗作であるという人もいる。しかし中国空軍は F-35 を輸入しておらず、複製はできない。中国が SU-33 戦闘機を複製した状況とは異なる。中国はウクライナから廃棄された T-10K (SU-33 艦載機の原型の一種) を購入した。Y-20 型輸送機の状態も同様である。なぜ垂直尾翼の形状が C-17 に酷似しているのか？

現在答えは出ている：中国は真つ先に F-117A 及び F-22A の全尺寸模型を製作した。最初にこれらの機体のエアロダイナミックスを研究しデータを得た。その後、そのデータを運用した。中国は、当時のソ連や現在のロシアをはるかに凌駕する資金を投入している。

以上